



兵庫県立西脇高等学校 生活情報科通信 06 – 2021年9月4日

梅吉亭一日シェフ体験 | 7月28・29日 |



・今回、梅吉亭1日シェフを体験して、食に関するだけでなくいろんなことを学ぶことができました。

本番まで大変で難しいことばかりでした。1つ目はメニューを考えることです。味のバランス、見た目、効率、保存しておけるかなど配慮することが多く、なかなかいいメニューが考えられずとても大変でした。今まで飲食店の方の立場に立って考えたことがなかったので、少しでも気持ちを分かることができ、いい体験になりました。



2つ目に難しかったことは考えたメニューを思い通りに作ることです。私はシフォンケーキを担当しましたが、何回も練習していくうちに最初とは比べ物にならないくらいきれいにふくらんで、本番はほめてもらうことができたので良かったです。分量や材料、作り方が違うとこんなにも膨らみ方が違うことが分かり、大変勉強になりました。梅吉亭がきっかけで新しいことにも挑戦でき、調理のおもしろさを感じることができたのでごく良かったです。高校生の私たちが材料から選び購入して調理をすることは、なかなかできないことだと思うし、さらにその作ったものを地域の方に食べてもらうというのは、多くの方の支えがあってできることだと思うので、この恵まれた経験を生かし、これからの活動に役立てていきたいです。

3年 小林 磨周

こどもクッキング ~みらいえ~

・最初、恥ずかしがっていた子ども達も一緒に活動していくうちにたくさん話してくれるようになったことが本当に嬉しかったです。また「いろんな形をつくろう」という子どもならではの発想が出たときは驚きました。時間がかかりながらも作りたかった形に出来上がったカレーパンを見た時の子ども達は楽しそうに盛り上がってい

て、それを見てすごく幸せになりました。子ども達の発想からもたくさん学ぶことができ良い経験になりました。小さい子ども達からお年寄りの方々まで幅広い年齢の方と繋がりを持つことができるのが生活情報科の魅力だと改めて思いました。私たちが実際教えてもらったことを教える立場としてこういう経験ができ、教える立場でも学ぶことはたくさんあるということに気づきました。人との繋がりをもっともっと大切にしたいと思いました。

3年 川田 結月

アンケートより・・・子どもの作ったパンを家族で食べました。パン生地がとってもモチモチして最高に美味しかったです。ほめてもらえてすごく嬉しそうでした。ありがとうございます。パン生地からはなかなか一緒にしてやれないので 良い機会でした。「苦手な食材は細かく切ってまぜたらいいらしい！」と私にアドバイスをくれました。次回もぜひ、お姉さんたちとクッキングしたいです。(小2保護者、小2)



インターンシップ

8月4・5・6日

播州織工房館：3年（笹倉楓・笹倉花・小林・吉村）2年（宮崎）

Tamaki Niime：3年（伊喜利・大豊・藤野）2年（福井）

遠孫織布：3年（松場）

島田製織：2年（大久保・大西）



＜播州織工房館＞

インターンシップを通して、掃除の大切さ、相手への気持ち、挨拶の仕方など学ぶことができました。まず、日常で行う掃除をやらされるからやるのと、自ら進んでするという気持ちでは、仕上がりが全く違うことを学びまし

した。お客様のために掃除をするのは初めてなので、きれいにしようと思う気持ちが強くなりました。そして、商品をどう並べるかも大切な要素だと思いました。ただ並べるだけでなく命を注ぐように一つ一つ並べるときいて、その気持ちもお客さんに伝わるなと感じました。「ここまで来てくださってありがとう」という思いでお仕事をされていて、相手のことをどれだけ考えているかで、人柄も商品自体も変わることを学びました。来て下さることにこんなにも感謝してお仕事されている姿に私は驚いたし、私もこんな人になりたいと心から思いました。日々の生活の中で、分かっているつもりですが、本当に挨拶は大事だなと改めて感じました。工房館の店員さんの播州織に対する思いや誠意などを3日間でたくさん聞いて、とても魅力を感じました。

3年 笹倉花愛

＜遠孫織布＞最初は1人ということで大変緊張しましたが、一人だったからこそ様々なことができたので、参加して本当に良かったと思いました。2日目にお客さんの対応を見せていただき、その接し方やアイディアなど私がお客さん側だったら嬉しい対応だなと思う親切で丁寧な対応で大変良い経験になりました。3日目は染色体験もさせていただき、むらなく染めるための工程がたくさんあり、難しかったですが糸の染色という貴重な体験を通して布を織るためにたくさんの方が関わっていることを実感できました。私のオリジナルの生地を織っていただきましたが、考える時間があまりなく大変でしたが、みんなにたくさん褒めていただき、展示会にも出店していただけるので、とても嬉しかったです。3日間通して行った倉庫の糸の整理は、地味な作業ですが、とても大事な仕事だとおっしゃってました。例年より糸がたくさんあり大変でしたが、やりがいがある仕事で、あっという間に2時間3時間が過ぎていく作業でした。遠孫さんも今とても忙しい時期らしく、本当に大変だったと思いますが、いろんなことに気をかけてくださり、多くのことを教えてくださり、貴重な体験をたくさんさせていただいて、参加して本当に良かったなと思いました。とても充実した3日間でした。3年 松場千夏

＜Tamaki niime＞3日間、実際に機械を使わせて頂き、本当に貴重な体験をさせていただきました。近くで生地に触れ、鮮やか色や配色を見ることができ、改めてTamaki niimeさんの生地の素晴らしさを感じることができました。スタッフの方から生地の説明を聞いたり、スタッフさん同士「かわいいのができた！」などの会話を聞いて、本当にすごく愛着があり、好きなんだなと感じました。一つ一つ違うからこそ生まれる表情だったり、大事にする気持ちが強まるのだと思いました。皆さんとても楽しそうに仕事されていました。ものづくりの楽しさと難しさを改めて感じました。スタッフの方たちは何度も話し合っている姿をみて、たくさんの意見交換が素晴らしい作品を生み出すのだと思いました。私も自分の考えをしっかりとって、表現していきたいと思いました。

3年大豊志帆

＜島田製織＞私は播州織について、基礎的な事しか知らなかったけれど、作業をする中でたくさんの布に触れ、性能について知っていくうちに、織物の奥の深さや可能性がどんどん広がりました。布ができる過程も、実際に見学に行かせて頂きました。その場でしか感じることでできない温度や機械を通し終えた直後の布の肌触りなど、なかなか体験できないことばかりで感動しました。担当の方は「はじめほとんど何も知らない状態だったけれど、図書館でたくさんの本を読んで、これから自分はこんな仕事に就くのかと知りました。」と言っておられました。将来について不安があった私でしたが、努力の大切さを改めて知ることができ、少し自信がつけました。始めから完璧にできる人なんかいない事は当たり前で、ゼロからスタートし、自分のことをもっと知っていくうちに、得意なことや苦手なことが発見できるものであり、この3日間で私は自分のことを少し知ることができました。失敗することが怖くて、挑戦できない人が多いと思うけど、やってみないと何も始まらないということを実感しました。

また、今回のインターンシップで、絶対なくてはならないと思ったことは、コミュニケーション能力です。誰とでも明るく話せる人は、本当に社会に出て強いなと思いました。そのコミュニケーション能力はどうやってつけるの？と考えたときに、私が思ったのは、知識の数です。知っていることが多ければどんな話であっても相手に合わせることができるし、会話をすることによって、本当にその場の空気がガラッと変わると感じました。初めてあった人でも、話してみたらその人の良さを知ることができたり、笑顔が絶えない環境になったりするのは間違いのないと思います。だから私は今のうちからたくさんの物に触れ、経験を積み重ね、立派な社会人になる努力をしていこうと思いました。

2年 大久保明凜

